

江東区食育推進計画(案)パブリックコメントの実施結果について

1 パブリックコメントの実施

(1)意見募集期間

平成20年11月5日～平成20年11月25日

(2)案の公表方法

区報パブリックコメント特集号(11月5日号)、区ホームページ、江東情報ステーション
保健所、各保健相談所

(3)受付方法

区報刷込ハガキ、郵送、電子メール、FAX、地域保健課窓口持参

(4)意見提出状況

提出者数 24名

(内訳)区報刷込ハガキ23通、FAX1通

(性別)

性別	人数
男性	13
女性	11
計	24

(年齢別)

年齢階層	人数
20代以下	2
30代	
40代	
50代	7
60代	8
70代以上	7
	24

2 パブリックコメントで寄せられた意見

意見要旨と区の考え方:別表のとおり

(本計画に、関係のないご意見については掲載していません。)

意見要旨	区の方考え方
全体意見	
<p>食育推進という表現は不可 高齡化社会に対応する健康生活の設計を意図していると思われるが、食育推進とは時代感覚がずれているのでは、なかろうか。</p>	<p>健全な食生活は、人々が生涯にわたって心身ともに健康でいきいきと生活するための基本と考えています。したがって、食育は、いつの時代においても生涯を通じて実践するものと考えています。</p>
<p>食育全般については、たいいていの方は健康管理に留意しています。(食生活のバランス、適度な運動等)区としては、あまり口をはさまず、1回/年程度の無料健康診断の実施で充分と考えます。あとは主治医が指導します。</p>	<p>食育の大切さについて、情報提供などに努めていきます。</p>
<p>プランよし。なんでも毎年一つに絞ってPRし、実行できるようにする。</p>	<p>今後、情報提供など効果的な周知方法について、検討していきます。</p>
<p>全く同感の意欲的な食育推進計画です。食の安全と健康に各自が関心を高め、毎日実践するよう促がすこと。わかりやすい、シンプルな合言葉で習慣として、日常生活に定着を図っては如何。</p>	
<p>これから後期5カ年計画で意見をということですが、食育についてはすぐ取り組まないとダメです。計画をたてるのに5年もかけてられません。</p>	<p>この計画はこれから5年かけてつくるのではなく、今後5年間、食育を推進していくための計画です。</p>
食をめぐる現状と課題	
<p>第2章の6項目の中で2～6については、具体的な表現がされているにもかかわらず、1の“変化”という言い方は、あいまいで、何とでもとれます。食生活がどう変化したのかをはっきりしないと本音が伝わらないと思います。</p>	<p>食生活の変化として、「日本の伝統的な...食生活のパターンから、...欧米型の食生活に変化...栄養バランスの偏りが問題となっています」また、「多忙な日常生活を送る中で、...外食や中食を利用する人が増えています」など、具体的な変化について本文中に記載しています。</p>
<p>「5.食の安全、安心に対する関心の高まり」とあるが意味が幾通りにも受け取ります。例えば安全が確保された上での安心...or 安全性が充分でない上で、安心と断定し安心に...と受け取ります。安心に食する段階でないと思うが、食の安全性に対する関心の高揚と変更推進してはどうか。不安のない食の安全性を可能な限り追求改善した上でのことだと思います。</p>	<p>5の表題については、調査結果にありますように「食品添加物や衛生面に気を配る」さらに、「食品の安全性に悩み不安を感じている」など、食に対する安全と、同時に、安心して食する気持ちも高まっている現状を客観的にとらえ表現しましたが、ご提案について検討させていただきましたが、現行の表題のままと考えています。</p>
<p>保健所の食品衛生監視員がありますが、計画中对象として上がっておりません。ぜひメンバーとして使ってください。</p>	<p>食の安全については、本文中に記載のある江東区食品衛生監視指導計画に基づき、食品衛生監視員が監視指導を実施していきます。</p>
<p>輸入食品の薬物のかんし。</p>	

意見要旨	区の方考え方
食育推進の基本的な考え方	
<p>食べ物に感謝する心を持ちとありましたが、すべてここに原点があると思います。食育と口をすっぱくしても心が育っていなければ食育もダメです。心が育つ、私は心育と言っていますが、心育が(親が子供にしっかり心に栄養をやらなければ)なければ食育もありません。食物を大事にする、のこさない等々。</p>	<p>基本理念にある元気な心と体をつくるためには、食に対する感謝の気持ちを育むことは大切だと考えています。</p>
<p>最近食べ物に感謝する気持ちがうすれていると思います。私は、一人暮らしなのでセンター等で皆さんと一緒に食べるとおいしいと思うし、心がゆたかになります。</p>	<p>家庭での食べ残しを減らすなど、食に対する感謝の気持ちを育むことは大切だと考えています。</p>
<p>食べ物に関してもそうですが、私は“はし”の持ち方がとても気になります。「はし」を正しく持つと不思議と食べ物にも感謝すると私は思います。</p>	<p>「基本目標3 “食”に対する感謝の気持ちの醸成」の中で、「はし」の持ち方やマナーについて、記載しています。</p>
<p>一つは、一人食事はしないということです。家族全員での食事が良いのですが、それが出来なければ、せめて二人でも良いから単独の食事はさけるのが良いと思います。</p>	<p>「基本目標2 “食”に基づく健康習慣・実践力の向上」の中で、家族との食事の大切さを記載しています。</p>
<p>一人暮らしのお年寄りが多くなって来ています。自分で、食事を作り食べる事は、健康のためにも、ものを作るという行為も、心身ともに良いと思います。女性だから出来るという事もありえますが、男性でもそのように出来るように小さな頃から教える機会を身につけるのは良いと思います。</p>	<p>「基本目標2 “食”に基づく健康習慣・実践力の向上」の中で、区の次世代を担うこどもたちに、早いうちから良い食習慣を身につかせ、実践できる下地をつくっていきます。と記載しています。</p>
<p>「何をどれだけ食べるべきか」- 大切。同時に、汚染されていない物(食材)供給が不可欠。食材えらび教育が必要。</p>	<p>食材選びについては、「基本目標1の“食”に関する知識・選択力の向上」の中で記載しています。</p>
<p>共働きが多いせいか出来た食品が売れている。度々スーパーのを食べて見て下さい。ハンバーガー店に並んでいる子供達が常に多い。食事は各家庭で作るべきです。</p>	<p>本計画に基づき、栄養バランスや家庭での食事の大切さを伝えていきます。</p>
<p>私は、出勤時に駅付近で地面に座ってハンバーガーやパンをかじっている中・高生をたくさん見て、朝御飯を家で食べて来ないのかと疑問に思ってます。帰りも同様です。今、食べたらお夕飯はどうなるのかと心配してます。まず、家で朝食・夕食は摂るという姿勢をとらせるべきです。サラリーマンの方々も駅のホームや電車の中で、ピーナッツやソーセージを肴にビールを飲んでいて家に帰ってからにすればいつも思ってしまうものです。</p>	<p>「基本目標2 “食”に基づく健康習慣・実践力の向上」の中で、食べることの大切さを身につけ、より良い食習慣を実践できる人を育むことを目標とする。と記載しています。</p>
<p>食に関する知識向上の中に日本の食料自給率の改善を区民の立場で協力することをテーマの中に入れていただきたい。なぜ、日本の食料自給率は低下してきたのかの分析と各家庭、各学校レベルで自給率の改善に寄与できることはないかの視点から教育活動にとり込み同時に環境問題関連に含めた活動に発展させてもらいたい。</p>	<p>今後、食育を推進する中で、貴重なご意見として参考にさせていただきます。</p>

意見要旨	区の考え方
<p>施策の展開</p>	
<p>大変結構なプランです。強調して頂きたいのは、次の点です。即ち、実は「食」の問題が「サステナビリティや「もったいない」。「温暖化等地球環境問題。更に、「生物と太陽、食物連鎖の関係、等と密接に関係し、「食育」はその重要な一部であることを認識させて頂きたい。</p>	<p>4 施策の展開 「基本目標3 “食”に対する感謝の気持ちの醸成」の中で、食から環境を考えると「ねらい」を記載しています。</p>
<p>小中学生と一般区民が利用できる健康村をぜひ作りましょう。林間学校としても使い、食育である、米、野菜、くだもの作りができる村を作りましょう。</p>	<p>現在は、健康村の設置計画はありませんが、今後、食育を推進する中で、貴重なご意見として参考にさせていただきます。</p>
<p>“食の安全”について計画(案)の概要でも載っていますが、具体性ある内容を期待します。</p> <p>例えば、学校教育への対策、補助教材の作成。加工品、生鮮食品の問題点、表示基準、法的問題等、具体的内容。販売店の問題、消費者としての必要知識等</p>	<p>個々の具体的な事業については、今後、設置を予定している(仮)食育推進連絡会において、施策を検討していく中で貴重なご意見として参考にさせていただきます。</p>
<p>食育とは基本法にもあるように、生産者と消費者が互いによく知り、努力しあって食を理解しあうことと思います。その意味でも区内で作物をつくり、それを消費するという、つまり地産地消の実施を実現したい。区民農園を単なる娯楽とせず、小中学校に開放し、作物づくりをし、彼らに地産地消を体験させたらいいかでしょう。他に土地を見つけてもよし、兔に角、教育の一端に取り入れるべし。</p>	
<p>江東区は他の区に比べて、貸出し農園が少ないので、もっと増やしたらいいと思う。</p>	
<p>昨今、不安に思う、顔の見えない販売方法(コンビニ、スーパー)等で事件が続いています。こんな時こそ、顔の見える対面販売の小売店が見直されるべきだと思います。店主は、各自の商品に責任をもって売ようになるでしょう。人の手から手へ渡ることで、事故も少なくなり、感謝の気持ちも生まれるのでは？</p>	
<p>私は独居老人で全て一人でやっている。特に炊事は、1日3回のこと、この様な人は区内で少なくないと思う。これらに対する施策と推進を具体的にどのように行われるのか、我々とどうかかわっていくのか、今後期待する。</p>	
<p>「食を大切に作る心の欠如」 食べ物の生まれる現場を見せる、体験させる機会を作る施策が欠けている。対象を児童生徒にのみに限定せず、区が施策としてふれあいの機会を作る必要があるのではないか。</p>	
<p>「食に関する知識・選択力の向上」 ・計画中の豊洲市場の活用 ・食の現場の現状や食の安全、食文化等についてのセミナー開催</p>	
<p>「食に対する感謝の気持ちの醸成」 ・親子でできる農業体験をする合宿のような催しや場の提供 ・大島中学校など行っている干し柿づくりなどの、学校公開講座のようなものをもう少し規模を拡大し、各学校で実施できればと思います</p>	